

〈紹介〉

寺山 旦中 著 『禅の書と画』

Thomas F. Judge 訳 『ZEN BRUSHWORK』
Focusing the Mind with Calligraphy and Painting

呉 英 元

「不生不滅の命を感じ取って欲しい」という一心で、それを「書」にかけた寺山旦中教授の「筆禅道」に対する英語版の本『ZEN BRUSHWORK』が出版された。(二〇〇三年十月十日発行、講談社インターナショナル株式会社、印刷・製本は大日本印刷会社)

「書」の無頼漢である私がこのような立派な本を紹介することに恥ずかしながらも光栄に思っ手付けたのは、まったく先生の「書」に対する情熱に惹かれたからである。

寺山先生は、埼玉県で生まれ、本名葛常、旦中は居士号である。埼玉大学に国文、東京学芸大学に書道、東京大学に美学を学び、大森曹玄老師に参禅、横山天啓翁に筆禅道、山田研斎居士に参学という実に意欲的な道学暦に富んでいる。

また活動においても日本国内は勿論、インド、ハワイ、イギリス、ドイツ、フランス、オランダ、ベルギー等海外における剣・禅・書を指導伝播しているその輝かしい活躍と湧き出るパワーには驚く限りである。

英語版のこの本は、九六ページのアート紙オフセット印刷で、その Contents は Part I から Part IV までになっている。

Part I には、背景として・禅の書について／漢字の展開／書の根本／書の四つの宝物について／筆禅道の説明が載っている。

Part II には、準備と養気法について・禅線の無字棒／養気法を挙げてその準備運動として三分野に分けた実技を通して分かりやすく説明している。

Part III には、禅の書と画について・基礎練習／なおその上の練習／画の別に分けて、

基礎練習には、禅線とその応用／篆書／楷書について、

その上の練習には、草書／西洋文字について、画には、蘭／竹／梅／富士山／達磨／達磨像／一筆達磨／慈和直などの作品を通して丁寧に説明している。

Part IV には、鑑賞として・昔の名人の作品と寺山旦中の作品に分けて、

至道無難の「無」を初めとして平櫛田中の「和」、阿波研造の「寿」、山岡鉄舟の「水月」、植芝盛平の「合気道」、宮本武蔵の「達磨」、外数人の書と面を紹介し、寺山先生の作品七点を鑑賞に挙げている。

剣、禅、筆を学んだ山岡鉄舟の生き様と考えに刺激され、書道と

禪の大家である横山天啓により学びを受け、更に禪と剣を学び作り上げた筆者の「筆禪道」は、「禪の筆」を具現する道であり、禪の原則に基づいた書の形態である。その具体的な創造の成果としてここで紹介される代表的な作品を通して、筆禪道で実現される「禪の筆」の精神を伝えるための本であると説明している。

現代のいわゆる書道が字体の美しさを評価するのに対し、筆禪道とは永遠の命の生命力と力強さを現わすものである。生命の力や精神的な生命力とは「氣」を指しており、それを、筆を通して表現していることを紹介し、氣の準備を行うための養氣法が写真と共に詳しく説明されている。

特に漢字文化圏でない西洋などでは、広い芝生の上で大空に向って、しなやかに全身で描く「空書」を行い、体をゆるめる関節をほぐしながら主に呼吸の仕方によって体の隅々まで氣を通していく「養氣法」の禪を成して「書」を行うのである。それを西洋人が一体になって修行することには感心する。

寺山先生は、本学以外でも「書道」を中心とした東洋学の講義も行っており、『鉄舟と書道』『三舟及び南州の書』『書道鑑賞』『武蔵の世界』など数多くの著書を出している。英語版の次には『武蔵の剣と美』（二〇〇三年青春出版社）の韓国語版がソウルで出版されるという。国を越え民族を越えて、漢字世界の神秘感を体験し、筆で禪を行ずる先生の「筆禪道」に対する熱い思いがこの本に染みている。

〈終〉